

ステップファミリーにおける継家族間葛藤とその支援構築について
インタビュー調査を通して

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会行動クラスター

ステップファミリー（子連れ再婚家族）は、新しい存在ではなく旧来より日本においても存在するものである。しかし、死別を経た子連れ再婚が往時のそれであったことに対し、近年は有子離婚の増加を背景とした離婚を経た再婚であることに現代のステップファミリーの特徴がある。子連れ再婚家族という家族形態は、従来の核家族世帯である「夫婦と未婚の子どもからなる世帯」と区別がつきにくく、正確な数を把握することは難しいため、社会から特別に注目されることもなく、学術的に調査研究の対象ともならず今日まできたといえるが、米国においては1980年代よりステップファミリーの増加を社会問題の一つとして多くの研究者によってステップファミリーに関する研究はなされてきた。今後さらに増加すると予測される日本のステップファミリーを対象とした研究は必要だといえる。

本研究は、ある一人の継母と、7人のステップファミリーに育つ子ども達、ステップチルドレンへのインタビューによりその実態を把握し、いかなる支援が必要であるかについて検討することを目的としたものである。

各家庭での出来事や問題は、各家族のユニークなものであるが、ステップファミリーとしての生活において共通した経験を体験し、初婚家族とは違うステップファミリー特有の課題（困難、葛藤）を持つことがこれらのインタビューから確認された。初婚家庭においてはまず夫婦の関係が存在し、後に子どもが加わるのであるが、ステップファミリーは夫婦の関係に先立って親子の関係が存在する。ある日を境に生活を共にする親子には、各々にそれまでの「家族」として異なった歴史を持つ過去があるため、その歴史の違いが表面化し、家庭内での異文化の衝突を引き起こし、初期段階の混乱やストレスの大きな要因となる。「異なった歴史を持つ『家族』であって『個人』ではない」ところが初婚家庭と大きく異なり、また複雑さを生じさせる所以でもある。また、子どもにとっての実親がその家庭ではないところに存在するということが継親、子どもそれぞれに与えるストレスについても明らかにすることが出来た。

ステップファミリーが経験する感情や環境、問題を整理したうえで、ステップファミリーへの、特にステップファミリーに育つ子ども達への支援が必要であるという筆者の立場を本論文において明示する。